

第10回福山駅前広場協議会

日時：2025年（令和7年）7月25日（金）19時～21時

場所：まなびの館ローズコム 大会議室

内容

●事務局

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。これより第10回福山駅前広場協議会を開催いたします。私は本日司会をさせていただきます福山駅周辺再生推進課の山田と申します。よろしくお願いいたします。では、開会にあたりまして、建設局長の市川よりご挨拶を申し上げます。

《開会挨拶》

●建設局長

本日は、暑い日が続く中、第10回福山駅前広場協議会にご出席いただき誠にありがとうございます。本協議会は、この度で10回目の開催となりました。検討を開始した第1回は2021年10月です。そこから、4年近くが経過したことになります。この間、多くの方々に本市の顔である福山駅周辺のあるべき姿について、一緒に考えていただいていることに感謝申し上げます。あらためて、駅前広場再整備の目的を申し上げますと、現在、単なる通過点に留まっている現在の駅前広場を、交通結節機能を確保しつつ、人々が集まり・出会い・交流が生まれる場に変えることで、駅周辺に更なる民間投資を呼び込むことです。そのため、駅前広場だけでなく、駅周辺を一体的に捉えて、交通結節機能と都市の広場機能をバランス良く調和させる議論をこれまで重ねてまいりました。本日は、北口広場へのバスターミナル配置の検討状況をご報告させていただき、そのうえで、今後の再整備の方向性についてご意見をいただきたいと思います。また、来月9日に開催する市民対話集会の説明内容についても、ご意見をいただきたいと思います。皆様方の活発なご議論をお願いして、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

《座長挨拶》

●清水座長

ここまで暑くなると、駅前広場から中央公園あたりまで緑陰空間が広がってくれと良いなと思う。そのようなことまで含めて、駅周辺をどのように整備するのかという意見もいただきたい。更に、来月開催される市民対話集会をどのように行えば、色々な意見をもらいやすいのか、ご意見をいただきたい。それから、若者・女性を中心としたワークショップ、ヒロバラボについて。協議会は年齢層の高い男性が中心。市民を代表しているのかと言われると疑問がある。これからの広場の整備は、恐らく10年近くかかると言われている。今後、

広場を利用することになる若者や女性の意見を聴くことを目的に立ち上げようとされている。このようなことを通じて、活発な意見交換が行われることを期待している。

●事務局

ありがとうございます。続きまして、本協議会の委員のご紹介です。本来なら、お一人ずつご紹介させていただくところですが、限られた時間ですので、お配りしております名簿をもって代えさせていただきます。次に、本日の進行及び配布資料について、ご説明いたします。本日の議題は、「福山駅前広場の再整備について」及び「福山駅前広場市民対話集会について」です。次に配布資料についてです。資料1は本日の出席者名簿、資料2は福山駅前広場の再整備について、資料3は市民対話集会について、資料4は若者・女性を中心としたワークショップ【(仮) ヒロバラボ】の開催についてです。それでは、これより各議題に移りたいと思います。この度の会議はライブ配信を行っておりますので、ご発言をされる場合は所属とお名前をおっしゃってください。それでは、ここからの進行は清水座長にお任せしたいと思います。清水座長、よろしくお願いいたします。

《意見交換》

●清水座長

早速ですが、時間も限られていますので、事務局から資料の説明をお願いします。

●福山駅周辺再生推進課長

資料2「福山駅前広場の再整備について」をご覧ください。1頁をご覧ください。1. 前回までの検討経過についてです。この表は福山駅前広場整備基本方針で示したのですが、基本方針ではこの表の右から2番目のC案を基本としつつ、協議会の議論の中で、広場外へバスターミナルを配置して、全面的に都市の広場機能を生かすべきという意見を多くいただきました。そのため、表の一番右側のD案、駅前広場を全面的な広場とする案の実現可能性について検討してきました。2頁をご覧ください。全面的な広場化の実現可能性を検討するため、福山駅北口広場へのバスターミナルの配置について検討してきました。下の図は前回の協議会でお示ししたバスターミナルやタクシーなど交通施設の配置のたたき台になります。3頁をご覧ください。北口広場へのバスターミナル配置に関して、これまでの意見とその対応案について、改めてご説明します。まず、北口にバスターミナルを建てることで、福山城が見えなくなってしまうかという意見。これについては、景観に配慮した計画にします。建物を高さ制限内とし、外観にも配慮します。お城を見る景観とお城から見える景観の両方を大事にし、福山の新たな魅力を創出します。4頁をご覧ください。北口に路線バスが行くと、北側の道路が混雑するという意見について。これについては、路線バスと一般車の通行を分離します。バス専用のルートを設け、一般車と通行を分離することで、路線バスによる北口の渋滞への影響は生じさせないようにします。5頁をご覧ください。さんすて東の歩道は、自転車、歩行者が多く、バスやタクシー

が行き来すると危ないという意見。これについては、安全性を確保します。高架下をくぐる道路をバス・タクシー専用とすることにより、交通量の減少を図ります。また、交差点の改良により、安全性の向上を図ります。6頁をご覧ください。バスを利用する人は、南側にバスの乗降場がある方が良いという意見。これについては、南側にもバス停を配置することで、南北どちらでも乗り降りできます。7頁をご覧ください。2. 福山駅北口広場へのバスターミナル配置に係る検討状況についてです。一般車と通行を分離するため、支障となる建物（さんすて福山）の解体について、市とJR西日本で協議を行ってきました。さんすて福山の解体にあたっては、いくつかの課題があることが分かりました。それらのうち、建物の課題について、所有者であるJR西日本から、この場でご説明をいただきたいと思います。

●西日本旅客鉄道株式会社

バスの専用ルートを走らせるにあたり、支障する弊社及び弊社のグループ会社が所有するさんすて福山の一部解体について、市から協議をいただき、市とJRで検討をさせていただいた。さんすて福山のうち高架下から張り出した部分、北館と呼んでいるが、北館の一部が支障することになる。北館には店の他に、高架下を含める館全体の電気や機械設備がある。北館を解体するためには、これらの設備を移転する必要がある。その点については市にも共有している。ただ、移転先の確保などについては、現時点で解決策を見いだせていないという現状。また、支障部分の地下には大型の受水槽があり、構造上、建物を残したまま撤去するということが非常に困難ではないかと考えている。それほど大きな設備であるということ。これらは重たい設備のため、移設の難易度が非常に高い。将来的な建物の更新や老朽取り換えという事と併せて検討が必要ではないか、そのようなレベル感だということが確認できた。説明は以上です。

●福山駅周辺再生推進課長

市としましては、技術的な課題の解決方法を一緒に考えてきているが、現時点で解決策が見い出せておらず、現時点では、北口広場へのバスターミナル配置の実現には課題があり、時間を要すると考えています。8頁をご覧ください。本日、委員の皆様からご意見をいただきたいことについてです。市民へのアンケート調査などから、交通結節機能の改善や都市の広場機能の充実が求められています。駅前広場だけでなく、駅周辺（駅南北・東西）を一体的に捉えて、備後圏域の玄関口にふさわしい交通結節機能と都市の魅力とにぎわいを感じられる広場機能をバランス良く調和させる議論をこれまで重ねてきています。こうした議論経過や先ほど説明した北口バスターミナルの検討状況を踏まえ、再整備の方向性や各機能の配置計画などについて、ご意見をいただきたいと思います。説明は以上です。よろしくお願いいたします。

●清水座長

それでは早速、各委員からの意見をいただきたいと思います。挙手して、ご発言をお願いします。

●福山市商店街振興組合連合会

2018年に福山駅前デザイン会議が設置され、そして2021年からは福山駅前広場協議会が設置され、これまで議論が行われてきた。この間、パブリックコメントやアンケート、シンポジウム、実証実験の分析なども踏まえて、今日に至っている。第9回目の協議会で基本計画案を示すことができる予定だった。座長が言われたように、この場に壮年者が多く女性が少ないことは反省すべきだが、これまでの議論を重ねてきて、ある程度の合意形成ができたことについては尊重されるべきだと思う。市民の皆さんが福山の魅力を感じられるような、誇りに感じてもらえるような、そして、将来の世代に亘って、未来につながるような駅前広場の整備計画であってほしい。JR西日本から、さんすて福山の一部解体については技術的にも難しい部分があるという説明があった。協議会では、バスの北口への誘導については、さんすて福山の一部解体を視野に議論が行われてきたと思うが、現状では、相当の時間を要すると思う。これまでの意見では、駅前広場の全面的な広場化、そして、都市交通機能も何らかの形で駅前に置いておく方が望ましいという結論だったと思う。この状態のままで行くと、実施計画が決まったとしても、実現までおよそ10年かかる、非常に長い時間を要することになる。そういうことで言うと、駅前広場の全面的な広場化は大きな目標として持っておきながら、段階的・暫定的に整備を行い、実験をしながら、実現に向けた努力をしていけばと思う。私見ではあるが、例えば、バスターミナルを駅前広場の南側に集約する、あるいは、伏見町とさんすて福山の間が多少拡張できるのであれば、そこにバスターミナルを配置できないかと思う。あるいは、地権者の同意を得て、伏見町の一部にバスターミナルを配置できるなら、それらも駅に近いということだろうと思う。今後は公共交通が重視されてくると思われるので、さんすて福山が一部解体できるのであれば、駅の最寄りに駐車場やバスターミナルを造れるという希望もある。すぐには解体が難しいのであれば、全面的な広場化をめざしながら、段階的に進めたらどうか。JR大阪駅の北側にグラングリーン大阪ができた。公園やレストラン、商業施設が集まった新しい名所。福山駅前が広場になれば、周辺に商業施設やホテル、レストランがあるので、ある程度そういう要素を満たしていると思う。なんばの駅前広場でも、誰もが過ごせる居場所づくりが行われている。休憩用のベンチやテーブルを置いて、歩行者天国で運用している実績がある。福山駅前的大通りは、戦後の復興計画の中で先人の皆様が作り上げたもの。戦後ずっと、バスやタクシーのターミナル、モータープールとして十分に交通結節機能を発揮してきた。ただ、これからの10年、20年先の都市を造っていくということであれば、駅の北も南も城郭の中であるという一体的な観点からエリア価値を高めていくことが大事。8月9日の市民対話集会では、是非とも、広場の使い方や空間のイメージを丁寧に説明していただきたい。みんなで作る、共感で

きる広場や空間づくり、交通機能の充実、日常の居場所づくり、そのようなプランになってほしい。

●渡邊一成

2点申し上げたい。1点目は、これまで積み上げてきた議論は大事にしたいということ。全面広場化をめざす方向性を捨てるのはもったいない。引き続き、その方向性で取り組んでいくと良い。若者や女性のワークショップをするという話もあるが、将来を見据えた検討が必要。データを見ると、2024年の高齢化率は29%、2045年には33%に上がる。市全域の平均値なので地域差がある。ひょっとしたら50%を超えるところもあれば、25%くらいのところもあるかもしれない。そういう意味では高齢化社会を見据えて、駅前はどうあるべきなのか、当然考えていく必要がある。実証実験をやってきた中で、広場があると良いよねということは、市民感覚として醸成できてきているのではないか。そういう意味では、引き続き、全面広場化をめざすべきだと思う。一方で、現実的には難しいという説明があった。それはそう思う。そんな中であって、一発で完成をめざすのではなくて、段階的に進めるやり方もあると思う。これまで、福山駅周辺のまちづくりは、リノベーションまちづくりで、出来るところから着実に変えてきた。そう認識している。駅前広場についても、出来るところから取り組んでいくことを考えるべきではないか。空間づくりや交通行動もポイントとしてあると思う。どうしても地方都市なので車依存。ただ、高齢化する中で将来も車に依存するのか。将来を見据えて、どうやって段階的に広場化をめざすのか。色々な機運が出てくると思う。気運を逃さないように進めていく必要があると思う。

●広島県バス協会

福山駅は交通の結節点として、福山市にとって非常に重要な場所。この再編事業は、まちのにぎわいを創出して、回遊性に寄与するものであって、バス協会としては、この事業そのものには賛同している。福山駅の南側には、商業施設や行政機関、商店街、病院などがある。現在のバスターミナルは、市内各方面からの動線が交差する重要な拠点。現行の南口へのバスターミナル配置は極めて合理的である。先ほど、JRから北口へのバスターミナル配置は難しいという説明があった。我々としては、そうすると全面広場のあり方も修正する必要があると思う。再編事業は未来を生きる人たちのために行うべきもの。今後、健康寿命が延び、高齢者の免許返納は増える、そうすると高齢者のバス利用は増える。更に共働き社会が当たり前となる中、こどもの交通手段の確保も大切。また都市圏では、若者の車離れも顕著。誰もが移動できる権利、いわゆる交通権を守って、併せて、将来の自動運転であるとか、カーボンニュートラルに対応することをよく考えることが大切。我々としては、現在の乗り合いバスターミナルを可能な限りコンパクトにしたうえで、従来通り、駅の南側の広場の中に配置していただき、待機場の一部を駅前大通りに配置することができれば、今まで問題としていた渋滞や利便性、安全性、定時制、経営効率、運賃などの問題は、ほぼ解消できると思う。

我々はあくまでも乗り合いバスターミナルは駅南側に配置することが妥当と考えている。伏見町の再開発とバスターミナル計画が併せて進むことになれば、より素晴らしい。バスは市民の移動を支える動くインフラ。まちづくりと不可分の存在。福山駅前広場再編の計画については、利用者の声や現場の課題、持続可能な都市政策の観点から、将来に禍根を残さないように検討すべき。

●西村浩

これまでD案の実現をめざして進めてきた。さんすて福山の設備のことがあって、すぐに判断できない状態だと思う。全国各地で駅前広場の検討に関わっている。そう簡単に解決出来ないことが多くある。こういう壁が色々立ちちはだかる。社会が変化する中で、こどもや孫の世代のために、どういう未来を創っていけばいいのか、どう実現すればいいのかと真剣に考えながら頑張っている。そうして、頑張って達成したところは色々なメディアに取り上げられる。場の雰囲気は情報となって若者に伝わり、都市の価値が高まる。その場所を訪れたいとか、そこに住みたい、暮らしたい、まちに帰りたいということにつながる。これは確かなこと。日本の出生数は68万人台、予測より15年前倒しで進んでいる。死亡数は過去最多を記録している。人口減少により、足を引っ張られることはあると思う。その状況は他の地方都市も同じ。このような状況の中で、福山に帰りたいとか、福山に暮らしたいと思ってもらうには、メッセージ性がとても大事になる。小さなメッセージをどんどん打ち出して、自分たちのまちは最高に暮らしやすいとか、自分たちの街に来て欲しいと、みんなが頑張っている。とりわけ、駅前広場はものすごく情報発信力がある場所。ここにいる大人たちには、福山城を中心にもう一度まちを立て直していくことや大きな投資をして大きく変えていくこと、これまでの価値観を超えていくこと、そうした責任が課せられていると思う。将来的に、さんすて福山の建替えの時期がくれば、北口にバスターミナルができるかもしれない。もともと、北口にバスターミナルを移すという話は、伏見町への配置も検討したが、伏見町の土地はすぐにまとまらないという話があって、北口であれば、市とJRの土地なので、比較的すぐにまとまるのではないかということだった。ただ、北口はもう少し時間がかかるということであれば、スケジュール的には、改めて伏見町も俎上に載ると思う。まだ先が見えない中で議論しないといけない。だけど、先が見えないから言って、立ち止まると都市間競争に負けてしまう。全国各地で、車一辺倒の社会から、小さいこどもやお母さんが安心して過ごせる空間づくりにシフトしている。その情報発信力で、人が動いていくという時代が生まれてきている。バスターミナルは北口であろうと伏見町であろうと将来的には考えていて、今は、早期に暫定的にやることを考えていくことが大事だと思う。例えば、さんすて福山と伏見町間の道路。道路計画のたたき台でタクシー乗降場を配置しているところ。その転回を大きくすれば、バスが転回できると思う。そうすればバスの乗降場が暫定的に作れると思う。夏の暑い時期に、駅の改札から涼しいさんすて福山を通して、バスに乗れる。そんな都市構造が暫定的にできる。それができれば、完成形の整備までに10年かかってと

しても、駅前広場が空くので、バスとタクシーがいなくなった広場で、市民と一緒に広場の使い方の実験をしながら、広場をつくりあげていくということが出来ると思う。バスターミナルは北口であろうと伏見町であろうと、全面広場をめざしていくことを前提に、さんすて福山と伏見町北側の間の道路を変えて、暫定のバスターミナルをつくる。実験しながら、市民と一緒に広場をつくりあげていく。そんな工程を作った方がいい。とにかく、福山が都市間競争で負けないために、こどもや孫たちが大人になっても、いつか福山に帰って来たいと思ってもらえるような情報発信力を持つ都市整備をやらなければ、全く意思が伝わらないまちづくりになる。それをとても危惧している。ぜひ、未来を考えて良い意見を出してもらいたい。

●株式会社築切家守舎

さんすて福山の解体が難しいというテーマだが、やはりそのことに触れなければいけない。さんすて福山の解体が難しいから、計画を変えましょうというのは、今まで議論してきたことが何だったのかとなる。これまで、全面広場をめざして進んできた。ある方に言わせれば失敗と言われる大分を例に話す。妥協案を作っていくと、禍根を残すので、理想を求めて、どうすればいいかを考えることが重要。そういう意味では、全面広場化を実現するためにはどうすればいいかを考えると良いと思う。段階とか暫定という意見が出ているが、例えば、タクシーの乗降場だけでも変えるとか、あるいは、バス乗降場を減らしてもいいという意見もあったので、バス乗降場を減らして、少しでも広場空間をつくり、市民に使ってもらいながらやってみる。気運を高め、経済効果を生み出していく。段階的というより、アジャイル的にやっていく。そういうやり方も一つの案だと思う。そうしているうちに、さんすて福山を壊しましよとなれば、北口にバスターミナルを持っていけばいい。あとは伏見町の話。以前、再開発事業が中断したが、現在、まちづくりをもう一度頑張ろうということで、URにも協力をいただきながら、まちづくりの懇談会を定期的に開催している。月に一回程度、議論の場を設けている。加えて、再開発事業をするために20年前に設立した地権者法人がまだ生きている。駅前広場が変わるという中で、積極的に関わっていこうと、前回の株主総会で決議した。地権者の方々とこうした議論を共有しているわけではないが、伏見町の方々と連携していただきながら、全面広場をめざしてもらいたい。繰り返しになるが、全面広場を実現するためにはどうすればいいかを考えてもらいたい。あと、梅田の例、あそこは良い広場だなと思った。あそこが防災広場になっているのか分からないが、福山駅前にも防災広場は絶対に必要だと思う。そういうことも含めて、作り上げていただきたい。

●福山市身体障害者団体連合会

個人的には、伏見町にバスターミナルを持って行っていくことを諦めていない。藤本ビルの横はパーキングエリア。建物が無い。伏見町の方に対して、失礼な言い方になるかもしれない。伏見町の地権者でご商売している方がどのくらいの利益が上がっているのかよく分

からないが、なぜ反対されるのか。例えば、土地を手放さないでも済むようなやり方はないだろうか。市と町内会が合同で会社を作って、そこに建物を建てて、借地や借家でやるという方法とか。バスターミナルを一階に移設し、その上をマンションにするとか。そういう方法を考えてやれば、地権者もただ単に税金を払うだけでなく、収入にもなる。地権者の人に利益をもたらしてやらないと、地権者は協力しない。土地を買うのではなく、借りるということであればもっと進むのではないか。今の伏見町は、ほとんどシャッターになっている。伏見町で開発ができれば、もっと良くなるのではないか。地権者ももっと収入が上がるのではないか。そういうことも考えてやらないと、なかなか同意してもらえない。北側にバスを移動することに反対しているわけではないが、南側の方がより便利だと思う。そうすれば、福山全体が発展すると思う。福山の顔と言え、駅から南側を想定していると思う。北側は閑静なまちなみ。それも大事に。あまりに急激な変化を求めると、みなさん抵抗感があると思うが、伏見町の方々の意見も尊重しながら、歩み寄っていきたい。なんとかそういう方法を考えてもらいたい。あれだけの土地を遊ばせているということは、市にとっても不利益。福山市を訪れた方に、なんと田舎の駅だという印象を持たれても困る。広島第2の都市。それなりの顔をつくるべき。

●三谷繭子

協議会には途中から参加させてもらっているが、これまで色々な目線で議論されてきたと思う。皆さんが言われるように、ここで広場を諦めるよりも、違う方法を模索することに賛成。この広場の再編は100年に一度というよりも、今後、無理ではないかと思うくらいの大改造。中途半端は良くない。理想を模索できる状況があると思う。バスターミナルの場所については、バス協会から南側が良いという話もあったので、南側で出来る方法をもう少し、模索していく方がいいのではないか。交通の話は非常に専門性が高い。バスの運行方法やターミナルのあり方については、新しい事例がある。自動運転のこともあるだろう。代替案のイメージが無い中で議論しても、何も具体的にならないので、みんなで交通のことを学んでみる機会をつくってはどうか。これは提案。私も地元のために頑張りたいと思って帰ってきた。駅前広場はまちの顔と感じている。私も昔は福山のことが好きではなかった。帰省して駅に降りても、うんざりする風景だと感じていた。久しぶりに福山に帰ってきた若者にやっぱり福山が良いなと思ってもらいたい。自分の体験からもそう思う。自慢できるようなまちができるように。そういう議論をしたい。

●清水座長

ここまでの、1時間が経過した。まだ意見を出して無い方については、後ほどでもご意見を述べてもらえればと思う。続いて、2番目の議題に移りたい。まずは事務局から説明をお願いしたい。

●福山駅周辺再生推進課長

資料3、市民対話集会についてをご覧ください。1頁をご覧ください。1. 市民対話集会について。(1) 日時・場所です。開催日時は、来月の8月9日(土曜日)、14時～16時が広島県民文化センターふくやま、19時～21時がまなびの館ローズコムで開催します。両方、同じ内容になります。(2) 目的です。市民への周知や意見聴取が必要という協議会の意見も踏まえ、市民対話集会を開催することで、福山駅前広場再整備の目的や議論経過を丁寧に説明し、今後の駅前広場再整備の方向性について意見をいただくことです。(3) 内容です。①事業の説明、②参加者同士の意見交換、③全体対話を予定しています。2頁をご覧ください。市民対話集会で説明する内容について示しています。(1) 広場の必要性についてです。1つ目は駅前広場のポテンシャルを発揮させるです。年間1,300万人が利用する福山駅の駅前広場が、単に通り返る場となっている。備後圏域の玄関口にふさわしい交通結節機能と魅力とにぎわいを感じられる広場機能をバランス良く調和させる。あらゆる世代、特に若者や女性が集い、交流し、にぎわい、そして活性化していく場に変えていくという説明を行いたいと思います。2つ目は、駅周辺を魅力的なエリアに変えていくことです。駅前広場を変えていき、広場に人が集まることで、周辺に出店や起業しやすい状況を生み出し、駅周辺を魅力的なエリアに変えていくという説明を行いたいと思います。次に、(2) 全国的な流れ、事例紹介についてです。駅前広場の再整備の事例や整備効果について説明をしたいと考えています。全国の事例を踏まえて、「車中心」から「人中心」の空間への転換が進んでいることや再整備によって歩行者通行量の増加や地価の上昇などの効果が出ていることなどを説明したいと考えています。3頁をご覧ください。次に、(3) これまでの意見の聞き取りについてです。シンポジウムやアンケート、協議会、分科会、デザイン会議、実証実験など、これまでに様々な手法で議論を行い、意見を聞いてきましたので、そうしたことを説明したいと考えています。次に、(4) 南側広場のイメージ、使い方についてです。イメージパースを作成し、空間のイメージを分かりやすく伝えたいと思います。イベントだけでなく、日常的に様々な使い方ができることも伝えていきたいと考えています。資料を一枚つけております。例えばということで、以前、協議会の中で西村委員から説明いただいた資料です。これをそのままということではなく、見た方がイメージしやすい資料を準備したいと考えています。資料3の3頁に戻ってください。(5) 交通施設配置についてです。交通施設配置の検討状況について説明したいと考えておりますが、前段で議論をいただいた北口のバスターミナルのこともありますので、本日の議論を含めて説明をしたいと考えています。市民対話集会でいただいた意見については、まとめて整理したものをあらためて福山駅前広場協議会にお示しし、議論を行っていききたいと考えています。4頁をご覧ください。委員の皆様からご意見をいただきたいこととして、市民対話集会の内容や進め方ですとか、こういった形で進めればより多くの意見をいただけるのかについて、ご意見をいただきたいと思います。資料3についての説明は以上です。続いて資料4をご覧ください。若者・女性を中心としたワークショップ【(仮) ヒロバラボ】の開催についてです。前回の協議会で、将来、広場

を使うことになる若い人たちの意見や子育て世代の意見をしっかり聞いてもらいたいというご意見がありました。そのため、この場を開催したいと考えております。(1) 目的についてです。これまで参加機会の少なかった10代から40代。特に市外転出の多い20代女性を含みます。そういった方が駅前広場の議論に参画できる場をつくり、市民や来街者がワクワクするような広場を一緒につくっていきたいと考えています。そして、今後、広場が変わることの応援団となり、若者や女性に情報を届けるハブとなる人を増やしていきたいと考えています。そして、将来の駅前広場運営への協力者を見つけ出していきたいと考えています。(2) 概要についてです。対象者は、中学生から40代までの「福山駅前を良くしたいという思いのある人」です。これについては、公募を行いたいと考えています。人数は、25名程度を予定しています。回数は、合計4回を予定しています。内容としては、駅前広場の検討状況や将来の広場イメージを共有しながら、福山らしい駅前広場の景色や居心地の良い広場空間などについて、ディスカッションをしていきたいと考えています。そして、その意見を再度、協議会で共有しながら、基本計画案へ生かしていきたいと考えています。こちらについてもご意見をいただければと考えております。説明は以上です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

●清水座長

それでは、委員の皆様からご意見をいただきたい。市民対話集会の内容について、ご意見ご発言をよろしくお願いいたします。

●三之丸町町内会

この協議会も10回目。4年目になってきている。まちづくりは10年が一括り。最初の4年間、ずっと議論している。駅前広場整備については、3点あると思う。1つ目は、平面で駅前広場をつくること。2つ目は、福山城につながる舟入や二重櫓を表に出して見せるようにすること。3つ目は、再開発をして伏見町にバスセンターを持っていったらどうかということ。福山城に向かって、斜めにある入り江。このラインは重要。伏見町の再開発は、市が入って、一緒になってやらないといけない。民間に任せてもうまくいかない。10年後にはまた違う形の議論があるかもしれない。立体的なデッキや地下の利用とか、そういうものが福山の理想像ではないかという議論。今回は、市は立体的に考えるというよりも、市有地とJRの土地を整備しようとした。うまくできればいいが、市民は南側が交通の要衝として認識している。一回やってみたらと思う。交通渋滞を心配する意見もあるが、やってみないと分からない。これまで10回重ねてきた内容も、かなり色々準備をされて、実験的にもやられて、その結果、ここまで持ってこられた。内容もかなり良いと思う。ですから、8月9日の市民対話集会では、市には平面的な意思をはっきり伝えていただきたい。立体的なデッキ案とか伏見町のバスターミナルとかがいいなという人がかなりいると思う。そういうことを丁寧に説明してもらいたい。

●福山市身体障害者団体連合会

市民対話集会のやり方は2つあると思う。1つは最終案ができてから説明する。今回の場合は、最終案が決まっていなくて意見を聴くことになる。結果がどうなるか分からない。基本的なことをちゃんと押さえておかないと、市民対話集会をやったはいいが、意見が沢山出て收拾がつかないということも考えられる。基本的なところは押さえておかないと、やっても意味が無くなるのではないかと思う。一つ間違えば、これまで皆さんと議論してきたものが、全て白紙に戻ることも考えられる。その辺はちゃんとしてもらいたい。

●福山市自治会連合会

市民対話集会の内容について、ご意見を頂きたいということだった。資料はよくまとまっていると思う。基本的なことはみなさんに申し上げて、みなさんから意見を聴くようになっていくと思う。先ほどの委員からも意見があったが、決まっていなくて意見に対して意見を聴くということについては、同意見。長い年月を経て、D案ということになり、そういう経緯の中で、市民対話集会を開催するということになった。さんすて福山の解体が難しいという説明があったが、なぜ早く分からなかったのか。実現するためにはどうすればいいかという議論が必要。市議会では、石岡議員が、伏見町が良いと発言しているが、伏見町は地権者が多くて難しいという回答だったと思う。地権者が多いということだけではなく、お互いがウィンウィンになるような検討をしていただければと思う。

●西村浩

市民対話集会という言葉。今まであまり使われていない。説明会とはたぶん違うと思う。決まったことを説明して、それに対して意見をもらうというよりは、決まっていなくても含めて、これからどうしていこうかという意見を市民からもらう会ではないか。もちろん決まっていることもあるので、それも全部説明して、広場をどうしていくのかとか、交通もまだ決まっていなくて。そういう決まっていなくて色々な意見を聴く会だと思う。自分が作成したイメージ。設計しているわけでもなんでもない絵。大きさとかスケール感、イメージがないと意見が出にくいということがあったので、以前作成した。決まっているわけではない。この内容についても今後議論していくと思う。市民対話集会では、もっと分かりやすいイメージが出てくるといいことだと思う。各地で公共空間に関わっていると、市民と合意形成が必要なことがある。その時にいつも思うのは、色々な意見があるという前提に立っていないといけないということ。例えば、福山市民全員が、全面広場が良いと言う、そんなことは無い。沢山の意見があるということを前提に、お互い意見を尊重しないといけない。もう一つ。集約もできない。市民全員が一つの意見にまとまるということは絶対に無い。対話とは、市民同士が色々な意見があることを認識し、市民同士が議論すること。当局はそうした意見を聴きとって、最終的に判断していくという事になると思う。決める時に

は、一つにまとめたものを拾うのではなく、どういう未来をつくるべきかということを経験しながら、決断しないといけない。集約できないことを前提に、市民が対話をして、色々な意見があるということを経験する。それが、市民対話集会なのかなと思う。いずれは一つの計画としてまとめないといけない。自分の意見が採用されたり、採用されなかったりする。色々な思いが市民の中に残ることも事実だと思う。一つだけ出来るだけ多くの方にお伝えしていただきたいことは、決まったことは、全力で、みんなで応援しようということ。そうしないと決まったものが良いものにならない。決まった後は全力で応援してもらいたいので、ぜひ多くの人にお伝えしてもらいたい。こういうプロセスで進んでいくんだということを経験に入れてもらうと良い方向に進むと思う。

●福山商工会議所

市民対話集会の開催はとても良いこと。一つのものに決め込んだことを説明するよりは、多様な意見を吸い上げることが大切。一つは、広場化に対して、皆さんがどういう感想をお持ちなのか。北口のバスターミナルを提示した後は、色々な意見が出た経緯がある。交通結節についても、実際、市民は何を求めているのか。多様な意見を聴き取ればいい。多様な角度から、色々な市民の思いを聴き取ることが大事。バス協会もどこまでコンパクトにできるかを真剣に考えている。これは前向きに期待したい。どのようにすれば、バスターミナルをコンパクトにできるのか、バスの専門家の意見をよく聞いて、広場化の選択肢を増やしていけば、うまく進むかもしれない。市民対話集会を契機に、もう少しみんなの良い意見をいただければいいと思う。

●都市再生機構

まちづくりというのは、長い時間をかけて進めるもの。小さいものであっても、大きいものであっても、地元の財産であり、そこには生活があったりする。小さくても同じ。今回は、市民の対話集会なので、この場で、交通機能がここにあったら良いとかそういう議論の場ではないと思う。出来るところからやっていくとか、もしかしたら暫定的な姿を繰り返しながら、色々変わっていくかもしれない、何かが見えてくるかもしれない、未来像が見えてくるかもしれない。形が変わっていく中でも、こういう体験ができたらいいいと思う。市民が気付きを持って帰っていただけると良い。例えば、シンプルに緑があるよねとか。パーツをどう組み合わせ、段階的にやるのか。完成系はこうだ、ではなくて。こういう要素があったらいいなと、そういう気付きがあればいい。広場に対して、市民の方々の関わりシロがあると良い。市民が主体的にやってみたいと思うこと、それが良い広場の要素。市民の思いが重なって、市民の気付きになるといい。

●株式会社築切家守舎

先月、伏見町の2つの会合において、市から検討経過を説明してもらった。10人くらい

の会合。駅前広場の再整備に関心を持たれた方が多かったし、知ってもらいたいという思いもあった。本当に色々な意見が出た。例えば、地権者の女性の方がどのくらいの事業費なのかと質問した。市はまだ決まっていないと説明されていた。その後、別の方がいくらかかっても、例えば、100億円かかっても、経済効果が200億円あれば良いという意見を言っていた。交通関係の方は基本的には賛成だが、渋滞が起こらない事を数値で示せば、みんなに納得してもらえと言っていた。何が言いたいかということ、色々な方が気軽に意見を言えるようにしてもらいたいということ。そういう意見を持って帰ってもらって、また議論ができるようにしてもらいたい。

●清水座長

いつもより議論の対象が広がった気がする。これは大事なこと。どうしても、今まで交通のことばかりだった。そういう中で歩く人とそれ以外のことをどう調和したらいいかということばかりに集中しすぎてきたという反省がある。市民対話集会は大事なことだと改めて思う。これは個人的な感想。

●渡邊一成

みなさまの意見を聴きながら、そうだ、そうだと感じていた。皆様と同じ意見。引き続き、色々な意見を聴いてもらいたい。若い人や女性の意見を聴くことは非常に良いことだと思う。11年前に福山に着任した際、親しみやすい駅だと感じたが、考えてみると、おじさん向きの駅なのかもしれない。幅広い意見を聴いて、協議会で共有して、話が出来ればと思う。

●三谷繭子

まず、市民対話集会の場をつくってもらったこと、ありがたいと感じている。市民対話集会を開催することが発表されてから、周辺でも喜びの声を聴くことがある。期待されていると思う。細かい話だが、西村さんが言われたように説明会ではなく、対話会だという点が非常に大事だと思う。市からの説明が長くなりがち。説明が長くなると、後半まで聞くのが大変。もやもやする。結構あるパターン。いかにビジョンを伝えて、共感してもらうかが大事。ビジョンありきで、細かいところをどうするかという進め方をされてきているので、説明の仕方を工夫していただけると良いと思う。

●西村浩

説明が長いと飽きてくるという話があった。説明をうまくやるということが一つ。もう一つは質問の出し方。上手くやらないと、何を言っているか分からなくなる。質問の仕方も大事。特にヒロバラボは若者や女性にお話してもらおう機会だと思うが、ヒロバラボに参加する世代の方々が、いつか福山に暮らしたいと思ってもらえる社会をつくらない限り、人口減少の中に未来は無い。どうすれば福山にずっといてくれるのだろうかとか、どうすれば一度福

山を出ても戻って来てくれるのだろうかとか。そういったことを考えながら、プレゼンや質問の仕方を考えたほうがいい。主催側が単に意見をくださいと言うのではなくて、帰ってきてもらいたいと思いながら、明快に説明すること。それが良い会になるかならないかの違いになると思う。運営側でよく考えていただきたい。

●広島県地域政策局

ヒロバラボについて。以前、若者など、広場を使う次の世代の方々の意見が重要だと申し上げた。正にそういう場を設けてもらってよかったと思っている。意見を聴く場ということだけにすると、意見を言う側は他人事になってしまう可能性がある。名前のとおり「ラボ」ということであれば、少しでも良いので、意見が形になるようになると良い。意見を聴くだけでなく、実践につながるものにしていただきたい。

●清水座長

最後に感想を言わせていただく。3つある。一つ目は、駅の北側ではなく、当面、南側で考えるということになったということ。北と南が上手くつながって機能するようにしたいという当初の計画に対して、バスが南側に停留できて、北まで回らなくてもいいプランが出てきた。何と言ったらよいか分かりませんが、不幸中の幸いとでも言うべきなのか、良い結果が生まれる前兆のような気がした。

2つ目は市民対話集会のこと。大事な視点についての意見が出ていた。対話集会とは何をやるのか、明快な見方が提示されたと思う。出てきた意見を含めて協議会で真剣に検討すべきだと思う。

3つ目は若者・女性を中心としたヒロバラボについて。重要度が高いものがようやく出てきた。これで福山駅前を中心に、未来を考える場がようやく揃ったという気がする。真剣に福山の将来や自分たちのこども、孫たちのことを考えて、意見を言っていた。おもしろいことが起きてくると思う。福山の未来を決める軸になる可能性がある。以上が感想です。どうもありがとうございました。

《閉会挨拶》

●企画財政局参事

ありがとうございました。色々な意見をいただいた。全面広場化はめざすべきという意見が多かったと思う。ただし、北口バスターミナル案に限らずに他の案を考えるべきではないとか、暫定的・段階的に考えるべきという意見が多かったと思う。市民対話集会については、質問の出し方や運営、資料の作り方が大事という意見があった。資料内容は検討する。委員の皆様には資料を前もってお送りしたい。今回、未来を見据えながらという意見が多かったと思う。私、去年の5月に、宮澤喜一記念館の事務の責任者として完成に携わった。是非見ていただきたいのだが、そこで功績を伝える動画を見れる。高架化の工事は、昭和40

年代に着手された。昔は電車が地上を走り、電車が通るたびに踏み切りが閉じていた。高架化により、踏切が無くなり、普通の信号交差点になった。50年も前の話。当時の宮澤喜一先生の力も大きかったと思う。あそこを通るたびに、すごいお金をかけて、大決断をされたのだろうと感じる。我々はまだその恩恵を受けていると思いながらいつも通っている。今の駅前広場の再整備についても、未来のこどものためにするんだという意見があった。今は頑張りどころという意見もいただいた。十分に論点整理して、市民の皆様の意見を聴きながら、理解していただきながら進めたい。早い内にフィードバックしたい。引き続き、よろしくお願いしたい。ありがとうございました。

●事務局

これをもちまして、第10回福山駅前広場協議会を終了いたします。本日はありがとうございました。